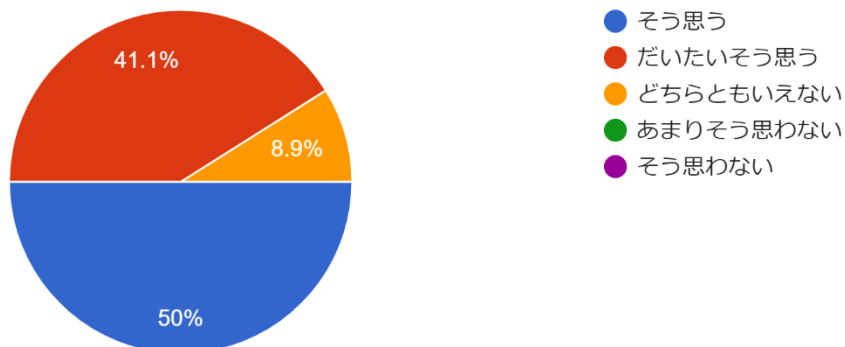


令和2年度 学校評価アンケート 自己評価（教職員）

5. そう思う 4. だいたいそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. そう思わない

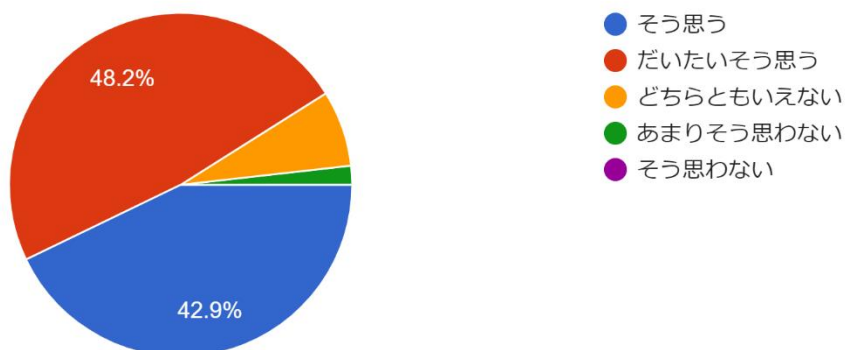
1. 自己管理を怠らず、職務に専念できるよう心掛けているか。

56 件の回答



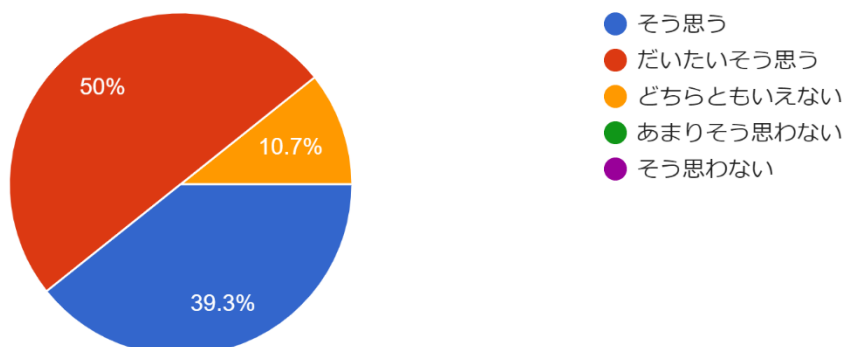
2. 校務分掌を自ら進んでこなし、全うしているか。

56 件の回答



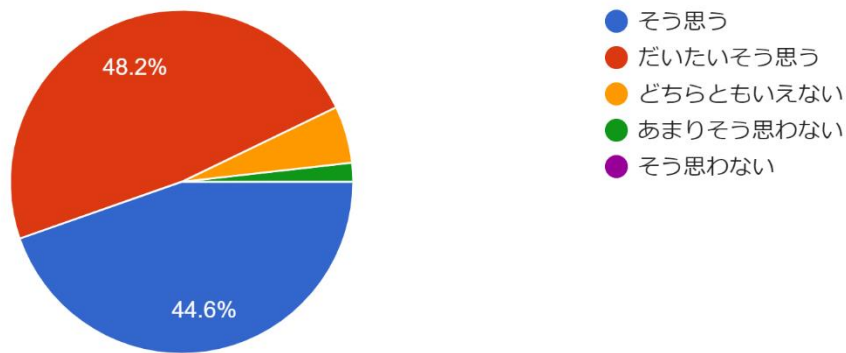
3. 学校行事に自らが積極的に関わり、生徒への働きかけを充分に行っているか。

56 件の回答



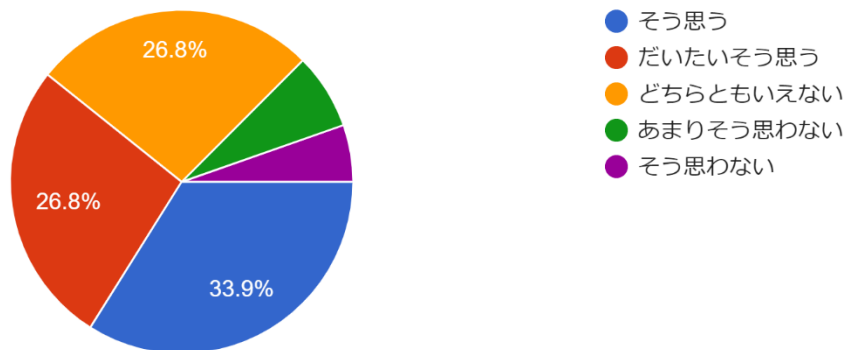
4. 服装や言動に注意を払い、生徒の範となり得るように努力しているか。

56 件の回答



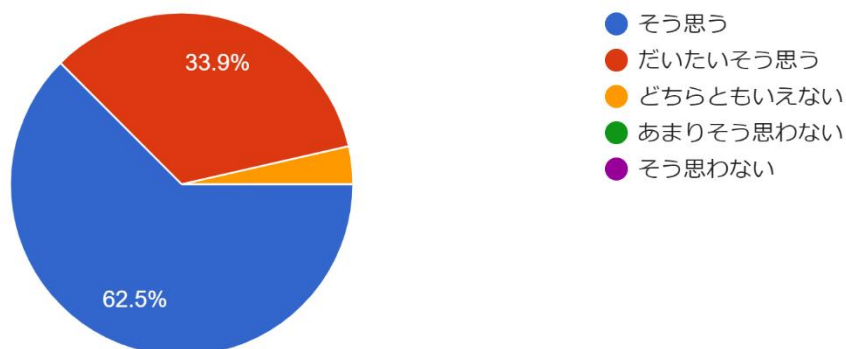
5. 部活動の顧問として、その指導に熱意を持って取り組んでいるか。

56 件の回答



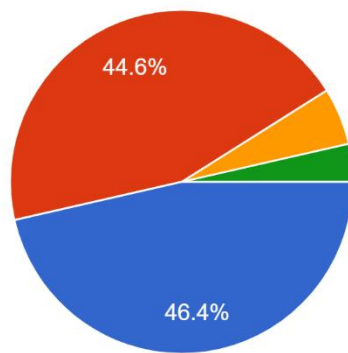
6. 報告・連絡・相談を心掛けているか。

56 件の回答



7. 教材研究を熱心に行っているか。

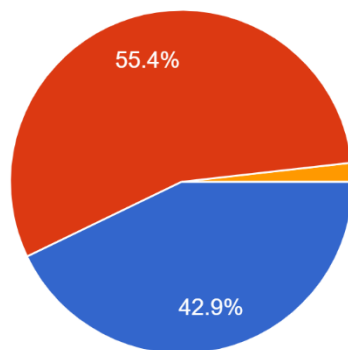
56 件の回答



- そう思う
- だいたいそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- そう思わない

8. わかりやすい授業を心掛け、授業展開に工夫を凝らしているか。

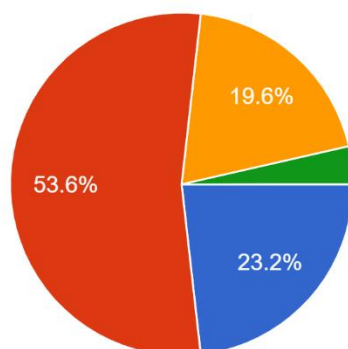
56 件の回答



- そう思う
- だいたいそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- そう思わない

9. 適切な教材及び機器の活用に努めているか。

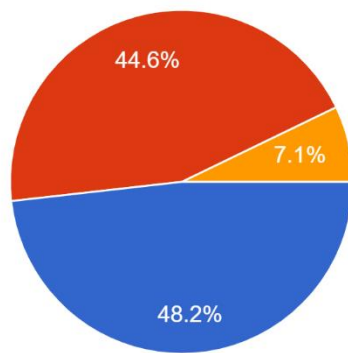
56 件の回答



- そう思う
- だいたいそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- そう思わない

10. 時間厳守で授業にのぞんでいるか。

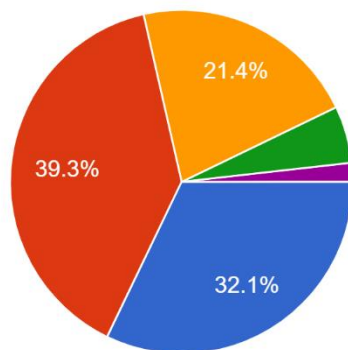
56 件の回答



- そう思う
- だいたいそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- そう思わない

11. 課題を与えたり、小テストを適宜実施しているか。

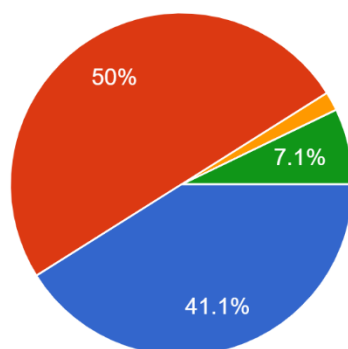
56 件の回答



- そう思う
- だいたいそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- そう思わない

12. 公平さと共に、各人の能力に配慮をした発問や授業展開をしているか。

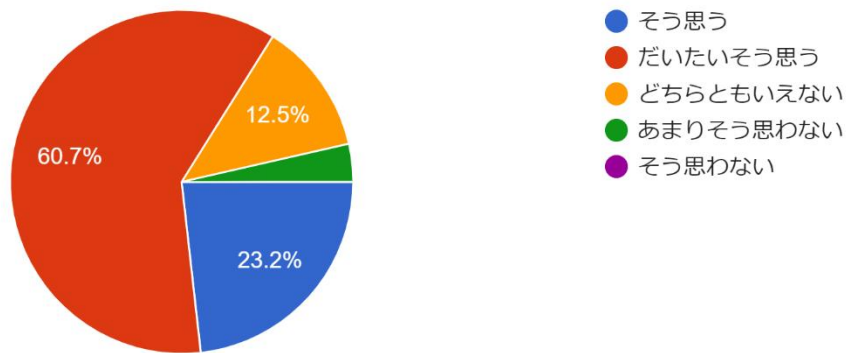
56 件の回答



- そう思う
- だいたいそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- そう思わない

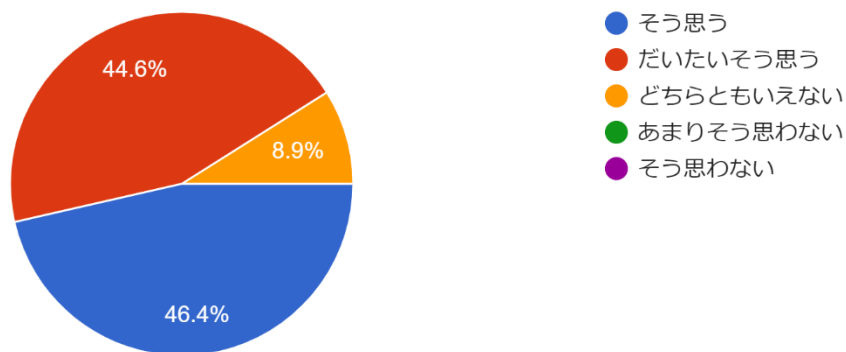
13. 授業の取り組みができていない生徒を指導しているか。

56件の回答



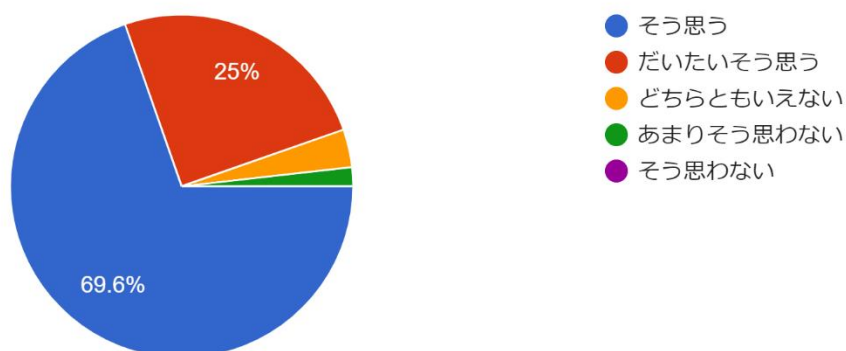
14. 教室全体を把握することや、机間巡視に心掛けているか。

56件の回答



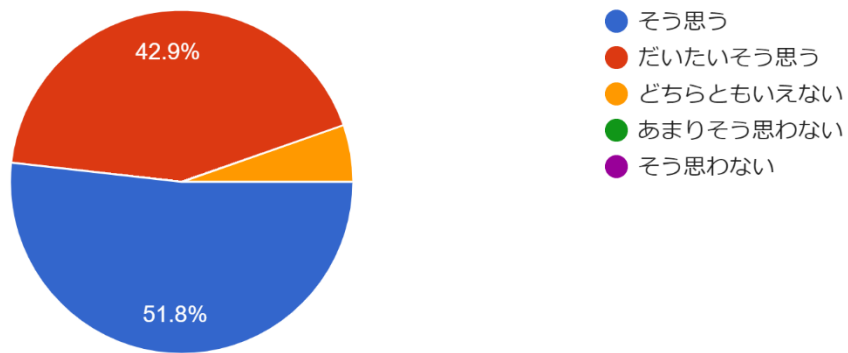
15. 生徒への声掛けや挨拶など、積極的にコミュニケーションをとっているか。

56件の回答



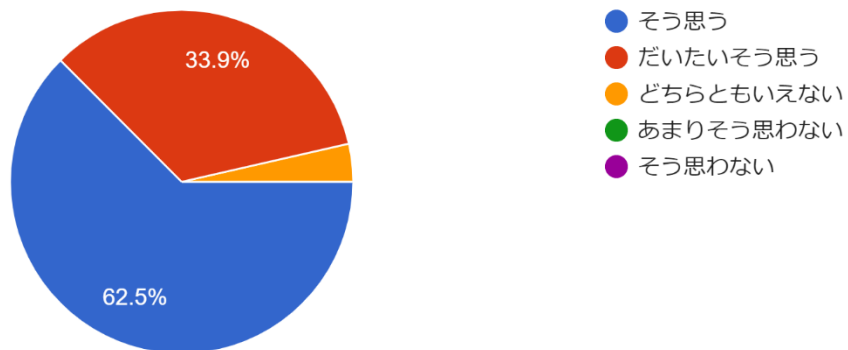
16. 生徒のわずかな変化にも気づこうと、日常を心掛けているか。

56 件の回答



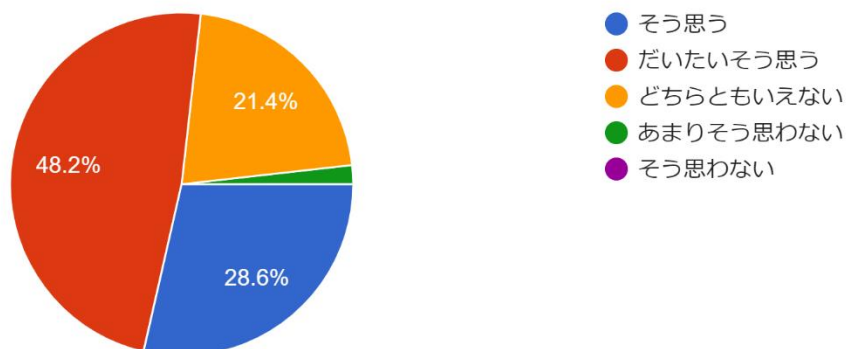
17. 感情にまかせて生徒を叱ったり、罵倒することがないように充分心掛けているか。

56 件の回答



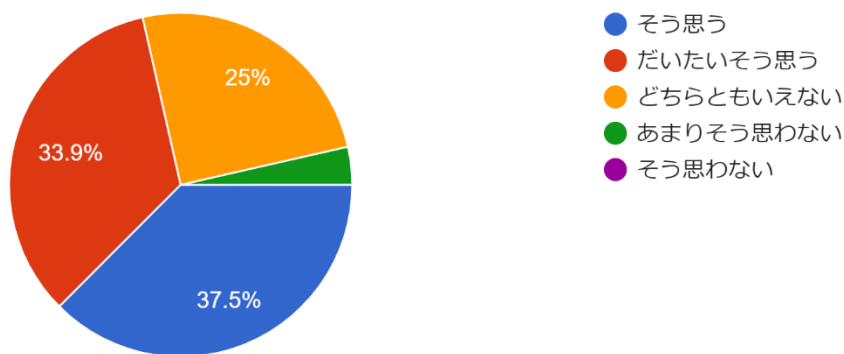
18. 身の整理整頓の指導は出来ているか。

56 件の回答



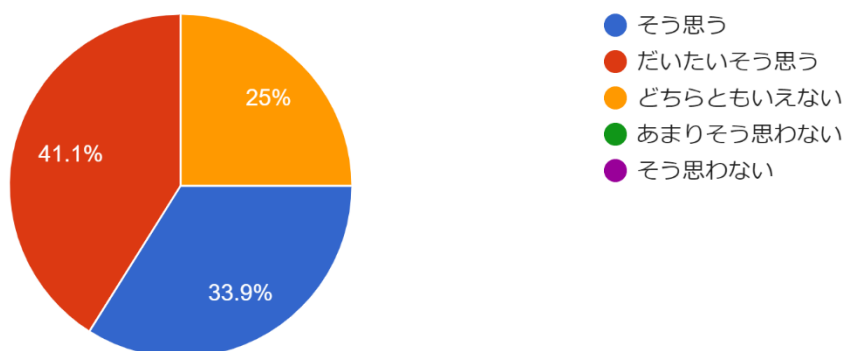
19. 服装の乱れや、言葉遣い（ため口等）に対して指導が来ているか。

56件の回答



20. 保護者への周知・協力など連携に努めているか。

56件の回答



- “質問1”について回答（5・4）が約91%。昨年度は93%。100%を目指したい。
- “質問2”について回答（5・4）が約91%。昨年度は89%生徒に関わる事項も多く校務分掌には含まれているため、決して疎かにしてはならない。教職員同士の声掛けを行い、全員で全うできるように心掛けたい。
- “質問3”について回答（5・4）が約89%。昨年度は84%。我々の職務は全て生徒のためである。その生徒が活躍する学校行事において、関わり・働きかけが乏しいということは決してあってはならない。今後教職員一人ひとりが意識をして取り組まなければならない。
- “質問4”について回答（5・4）が約93%。一昨年度は57%、昨年度は80%と数年で教職員の意識が大きく変わったところではないだろうか。生徒は、教職員の姿・立ち振る舞いを見て真似しようとすることもある。全教職員が努力できるよう声掛けをしていきたい。
- “質問5”について回答（5・4）が約60%。昨年度も60%。本校には、スポーツ奨学生及び文化奨学生を擁する強化部・準強化部が活発に活動しているが、その他、部・同好会にも多くの生徒が活動している。継続的かつ効率的な活動ができるように顧問は努力をしなければならない。
- “質問6”について回答（5・4）が96%。昨年度は97%。100%を目指したい。
- “質問7”について回答（5・4）が91%。昨年度は71%。多くの教職員の意識が変わった。教科指導は、学校現場において要である。ここは、常に100%を目指さねばならない。また、教材研究ができる環境を整えていくことも必要である。継続的に働きかけを行っていく。

- “質問8”について回答（5・4）が約98%。昨年度は75%。これについても、飛躍的に意識が変わったと言える。授業力向上のために研究授業等は現在も実施しているが、今後も継続し、より質の高い授業が展開できるよう努めたい。
- “質問9”について回答（5・4）が約77%。毎年度、適切な教材の選定を行う。そのために、教科ごとに選定会を実施し、教師間でのアイデア提示を含めた検討を行う。また、ICT技術も駆使し、より効果的な授業展開ができるよう努めたい。
- “質問10”について回答（5・4）が93%。昨年度は64%。飛躍的に改善はされている。しかし、授業は50分と限られている。時間は有限であり、無限ではない。授業時間というものをまずは教師が大切にしたい。また、時間を守るということは、生徒が社会に出てから、必要とされる基本的な資質である。これを、教師自ら疎かにすることがあってはならない。
- “質問11”について回答（5・4）が71%。昨年度は53%。生徒が授業内容を知識としてきちんと身に付けられているか、定期考査だけではなかなか見えにくい部分がある。日頃、小テストや課題を課し、復習・反復することで確実に生徒が理解し学力を付けるようにしたい。また、定期考査では生徒自身が成長することができたと実感できる機会としたい。
- “質問12”について回答（5・4）が約91%。昨年度は76%。クラスには、さまざまな個性を持った生徒や配慮を要する生徒が在籍している。同じ内容の授業でも、クラスが変われば展開の仕方を工夫すべきであるし、教師の一方的・偏執な授業展開であってはならない。生徒の理解力に応じた発問を交えての授業展開を目指す。（2）の7%という数値は決して低いものとは捉えず、今後、全ての教職員が（4）さらには（5）を選択できるようにしていく。
- “質問13”について回答（5・4）が約84%。昨年度は73%。生徒の学校に在籍する意義は授業である。その取り組みが出来ていない生徒を見逃してしまうことは、大きな問題である。様々なアプローチをかけて授業にしっかりと取り組んでもらえるよう指導していきたい。
- “質問14”について回答（5・4）が91%。昨年度は70%。全ての教職員が（3）以上を選択している。今後この数値を維持、更には向上できるよう継続していきたい。
- “質問15”について回答（5・4）が約95%。昨年度は83%。教師の指導の対象は生徒である。コミュニケーションを図ることは必須であり、教育現場に推進力を持たせるために大変重要なことである。100%を目指し、今後も働きかけていきたい。
- “質問16”について回答（5・4）が約95%。昨年度は78%。生徒にとって、学校生活では毎日様々な出来事が起きている。全ての出来事が生徒個人にとって有益に働くとは限らない。情緒不安定になり、不登校につながる恐れなどもあることから、教師は教科指導だけではなく、生徒のわずかな変化に気を配るべきである。そういった意味でも、より高い数値になるよう努めなければならない。
- “質問17”について回答（5・4）が約96%。昨年度は80%。教師の発言は生徒に大きな影響を与える。15歳から18歳は多感な時期で、我々の発言により大きな傷を負わせかねない。そうならないためにも、さまざまな研修会や講演会に積極的に参加し、多様な場面に対応できるよう指導力を高めなければならない。
- “質問18”について回答（5・4）が約77%。昨年度は66%。学習に集中して取り組める環境を作るためにも、身の整理は重要である。生徒の成績向上のためにもしっかりと指導していきたい。
- “質問19”について回答（5・4）が約71%。昨年度は73%。服装の乱れは生活の乱れを表している。そこに我々がいち早く気づき、指導できるように努める。また、社会に出てから、会社の同僚や上司などとのコミュニケーションで困らないようにするためにも、高校生活の間できちんとした言葉遣いを身に付けさせられるよう働きかけたい。
- “質問20”について回答（5・4）が75%。昨年度は78%。残念ながら昨年度よりも値が下がっている。生徒の指導内容は多岐にわたり、学校だけでは、把握・管理ができないことも多くある。生徒を成長させるためには、教職員だけではなく、保護者との連携も必要不可欠である。

全体的に、全質問（5・4）の割合が（3・2・1）に比べて高くなっている。また、昨年度よりも大幅に改善されている項目も多くある。これは、各教職員が高い意識で業務に臨んでいる結果である。是非、継続していきたい。一方、回答（2・1）と自覚している職員がいることも事実であり、早急に対応せねばならない。良い指導を行っていくためには、まずは、指導する側がきちんとした意識を持つことが大事である。